

令和5年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	<input checked="" type="checkbox"/>
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	<input type="checkbox"/>

活動団体名：NIIGATA MUSIC LABORATORY

活動地域：新潟市

活動におけるテーマ
クロスオーバー



活動団体および活動地域の紹介

NIIGATA MUSIC LABORATORY

「新潟を音楽の街に！」をテーマにミュージシャンやクリエイターの活動支援を行っており、街の豊かさや憩いを表現する活動環境の整備にも寄与している。地産地消をコンセプトとした地域循環型フェスいわむロックFESTIVALへ関わりつつ、数多くの公共施設、行政主体のまちづくり事業や市民活動サポートなど積極的に行っている。セルフマネジメント講座などを通じて地域のプレイヤー発掘育成にも力を入れている。本年度はこれらをオンライン&オフラインで活性化する「NEW HOPE」プロジェクトを立ち上げた。

地域の現状と課題や資源：課題解決できるプレイヤーが点在しているが出会いの場がなく、常に人手が足りず、ソフトの場(活動)が生まれにくい。また、高齢者のプレイヤーが多くいるが、柔軟な対話が難しく若いプレイヤーが寄りつかず、良い取り組みや事業が消滅している。また、創業率も低い。

新潟は、大学や専門学校が多くあり若者の人口は多い。そして、地域づくりに興味のある学生が点在している。また、自然が多くあり自然体験ができる場所が多くあるが、活用方法が知られていないのか、自然に触れる機会が少ない人が多い。

新潟市中央区地域課事業「はじめて、しもまち。」MUSIC VIDEO

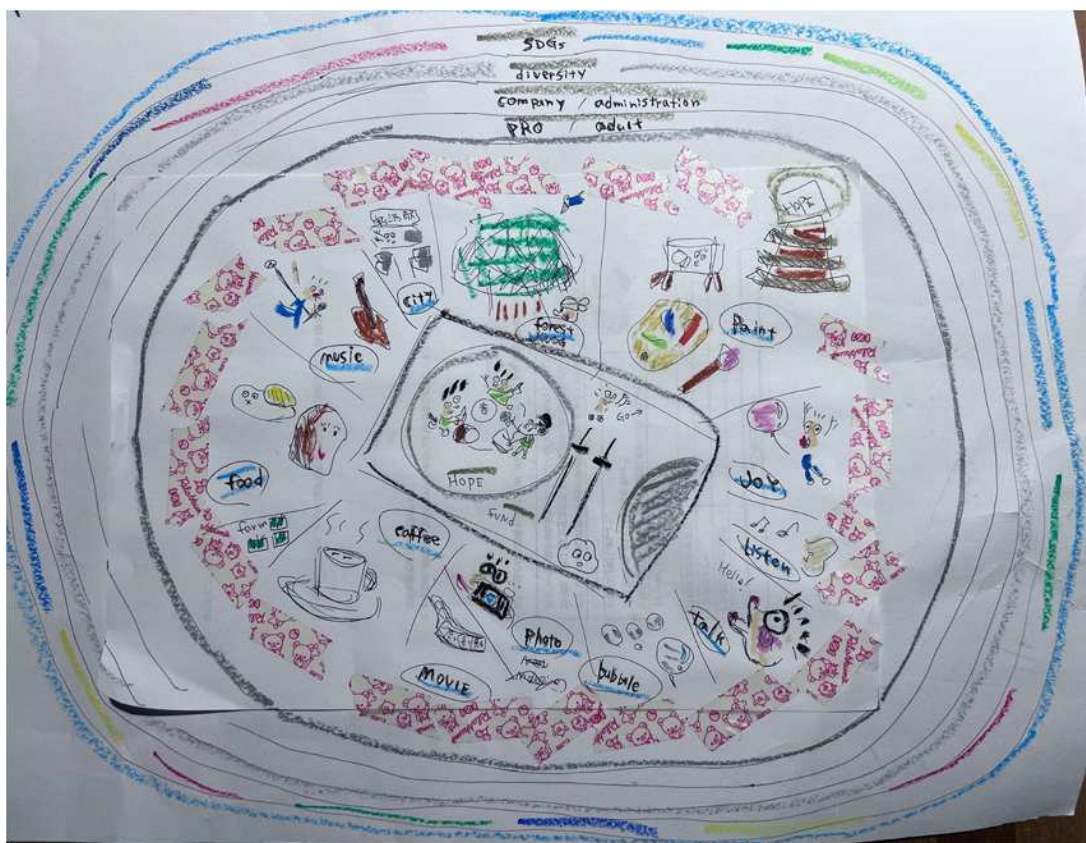


新潟市西蒲区共催 岩室温泉いわむロックFESTIVAL GREEN STAGE



NIIGATA MUSIC LABORATORY が考える・・・

豊かな街とは？



新幹線を降りて、駅を出た。
道を歩いていたらどこからギターや歌声が聞こえた。
この街のアーティストかな？

小さな公園を覗いたらフリーコーヒーを配ってた。
このまちの親子が焙煎したコーヒーらしい。
キッチンカーもいた。
このまちで育てられた野菜やお米を使ったフードだ。

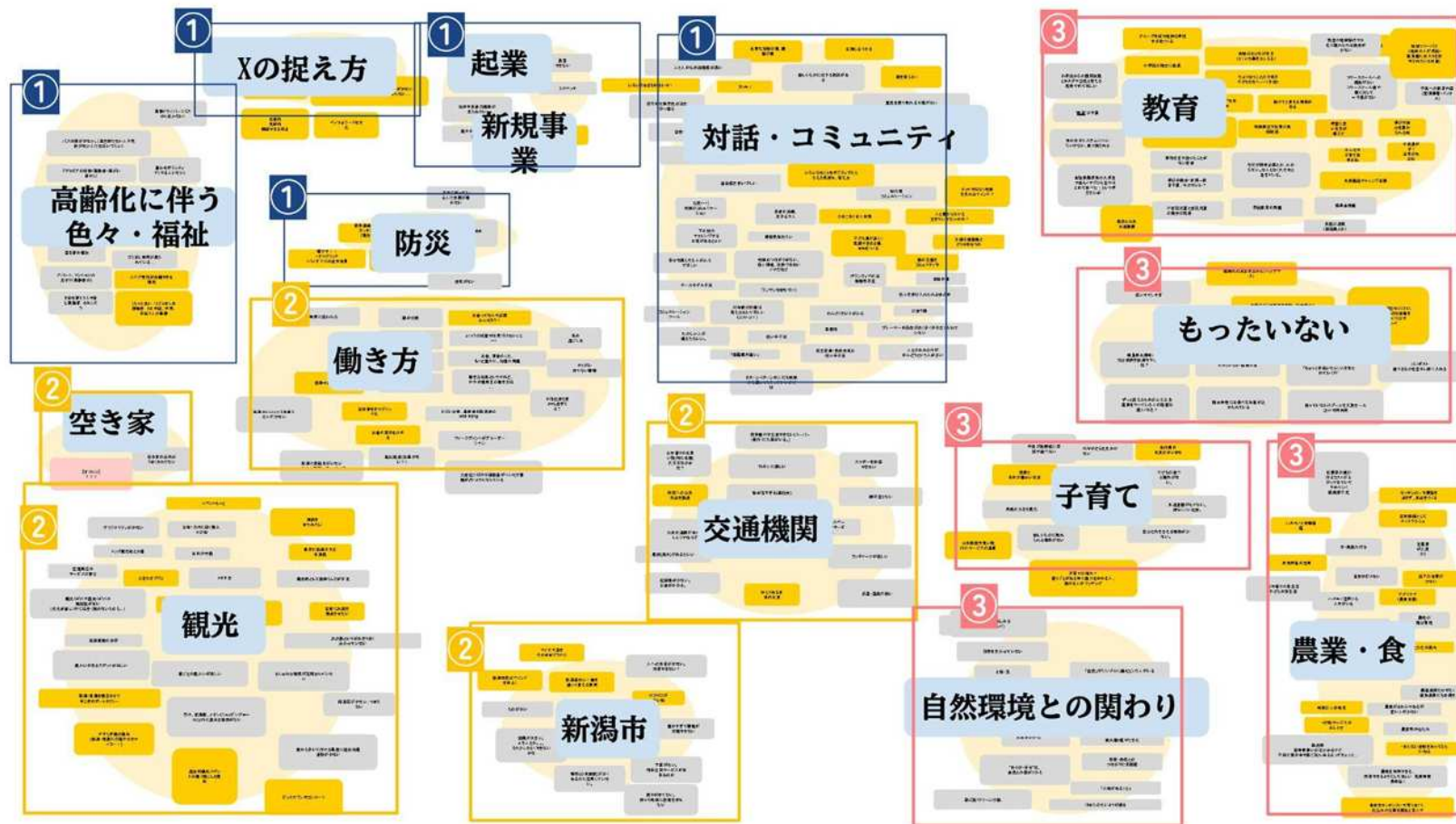
ちょっとベンチに座って一休み。

木のかげでお話している人がいる。
絵を書いている人がいる。
写真をとっている人がいる。
動画を撮影している人がいる。
歌っている人がいる。演奏している人がいる。
子どもたちの笑い声が響いている。

あの人、2階の窓から楽しそうに眺めている。
いい顔してるな。

ここにいる人もみんないい顔してるな。
あ、そういえば、ここに来る途中もみんないい顔してたな。

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

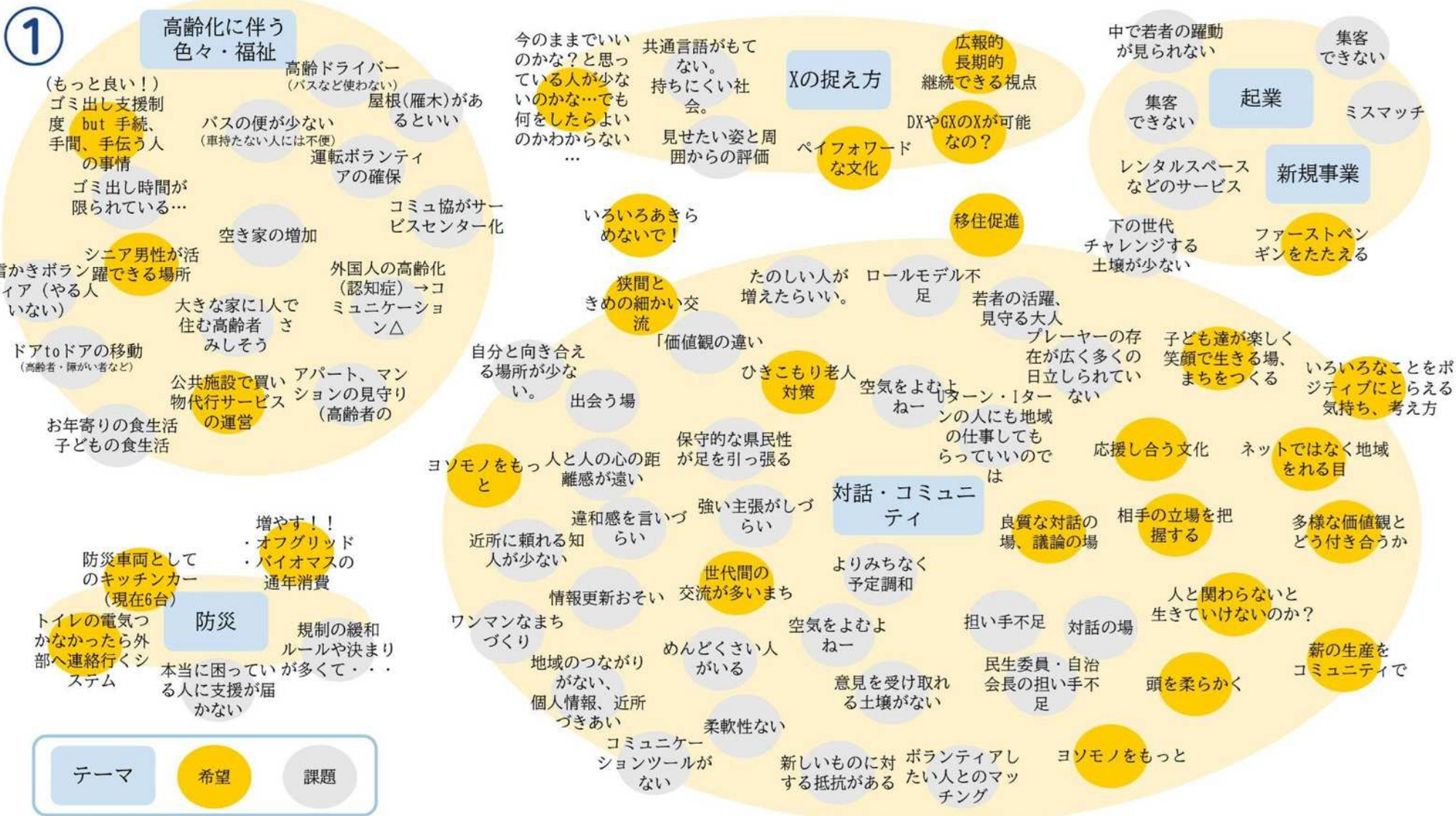


私たちは音楽やアートをベースに様々なカルチャーと繋がり、予期する未来の新潟をイメージしながら地域循環や共生というテーマに関わってきました。

新潟市に暮らす人々の満足度は高い。環境に恵まれている。だからこそ見えないのだと気づいてしまった課題が沢山潜んでいます。市民がそれに気づき当たり前に関わり合う事。機会損失を回避し、沢山の事業のタネが生まれる環境を目指したい。

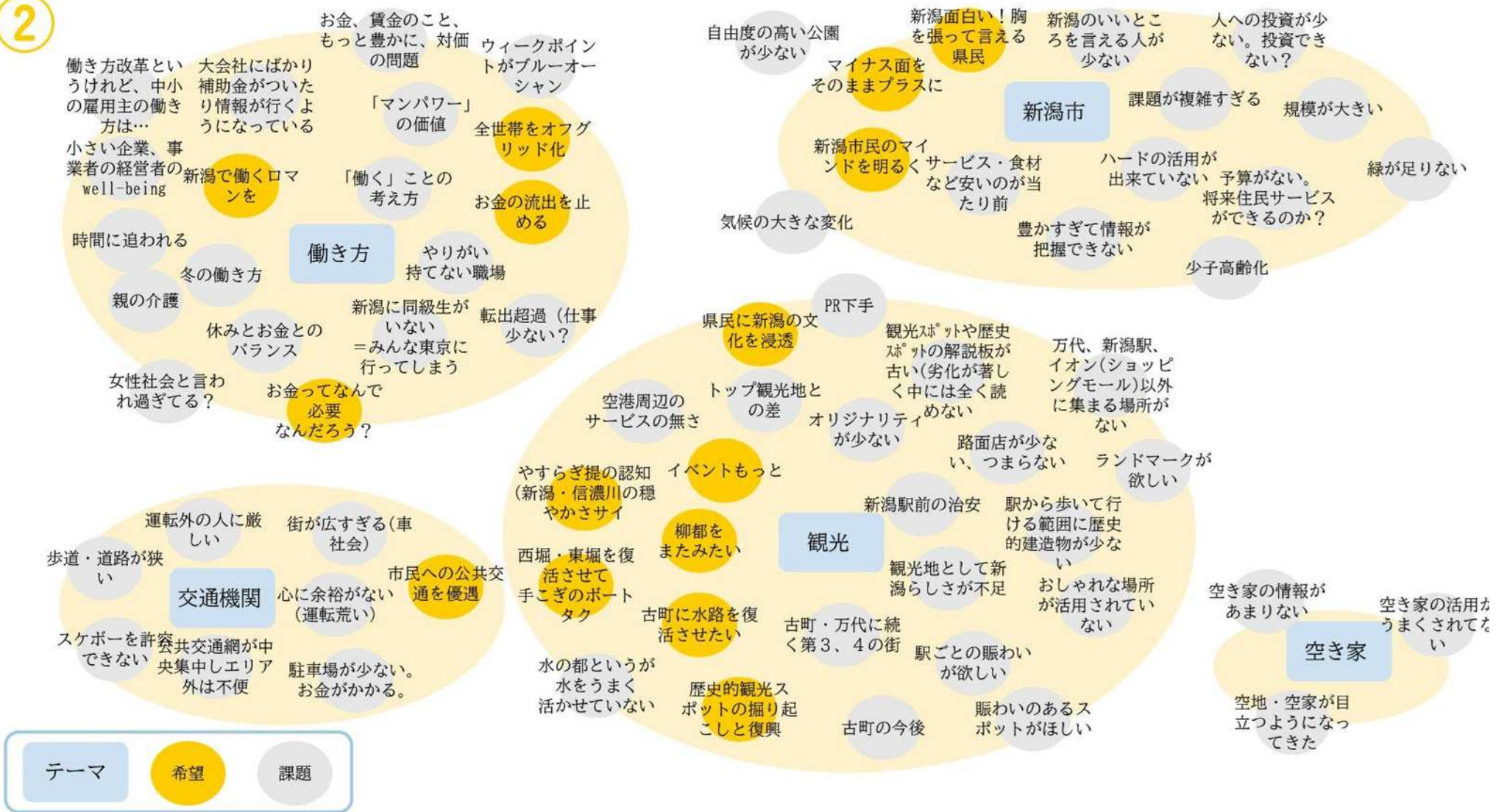
何百回と繰り返すマンダラ作りはその可能性を常に問う、終わりのない問い、長い旅です。

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



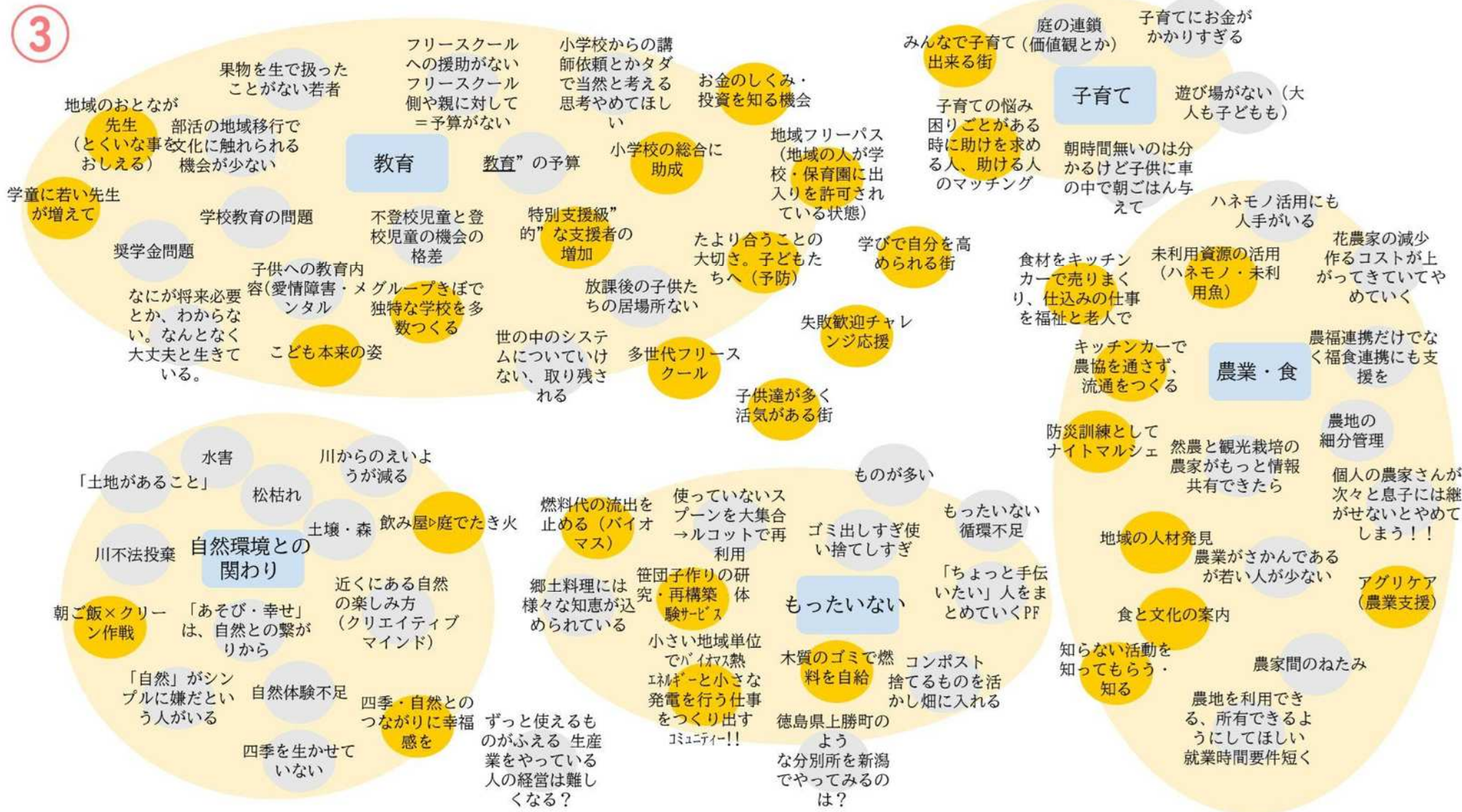
地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

2



地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

3



年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定		◆キックオフミーティング			◆中間共有会						◆成果報告会	
①Coffee House		→										
			月1回開催									
②Coffee House -Special Edition-						9/27 VOL.1			12/15 VOL.2	1/30 VOL.3		
③オンラインプラットフォーム Slack		調整		稼働スタート	→							

取り組み内容

- ①Coffee House 「新潟のこれからについて語り合う場」
- ②Coffee House-SpecialEdition- テーマを設定し、活動している方々にトークして頂く場
- ③Slack(オンラインプラットフォーム) ①②で繋がった方々といつでも情報交換出来る場

今年度チャレンジした主な取組内容 1

取組① 「Coffee House」



前回のマンダラを見ながら。
それぞれの付箋を書く。



それぞれが付箋を並べながら想いを語り、それを見て熱が伝染し、新たな課題や未来のイメージが増えて、折り重なって行く。

【活動内容】

新潟に暮らす様々な方(フリーランス、行政、勤め人、経営者、理事長(保育園)など)に来ていただき「新潟のこれからについて」語るカフェを月1回開催した。新潟の課題や妄想を語っていただいた。そこから出た事柄を地域版マンダラに落とし込む。

【成果や気づき】

地域に住み、その地域の人と関わっているからこそその課題や悩みが出てきた。1つのテーマでも方向性の違う課題がいくつも出た。より解像度の高いマンダラを抽出することができた。

今年度チャレンジした主な取組内容 2

取組② 「Coffee House-Special Edition-」

日: 1.30 TUE. これから生きる
時間: 19:00-21:30 (OPEN 18:30)
会場: Lagoon20
〒950-0916 新潟市中央区米山2丁目1-10 オールワンビル4F
料金: ¥2,000 (+1ドリンク代別 ¥500+となります。)
懇親会: 21:30 - 23:00 (参加費 ¥1,500、1ドリンク代別 ¥500)
主催: NIIGATA MUSIC LABORATORY

テーマ
「ひとりぼっちでも生きていける地域の仕組みづくり」
— 地域で支え合うつながり —



【活動内容】

テーマを設け、新潟をより豊かにするために活動されている方をゲストに迎えトークして頂いた。活動内容や課題について共有していただき、参加者の方々と一緒にテーマについて考えた。

【成果や気づき】

街をよくしていきたいという「意志」を持つメンバーで構成したことで、前向きかつ建設的な意見を交換することができた。また回を重ねることで全体の熱量が上がっていくことを実感した。良い企画や場所を積み重ねること、常に一番良い形は何かを考えること、実行すること。その繰り返しがこの事業においても大切だと気づいた。

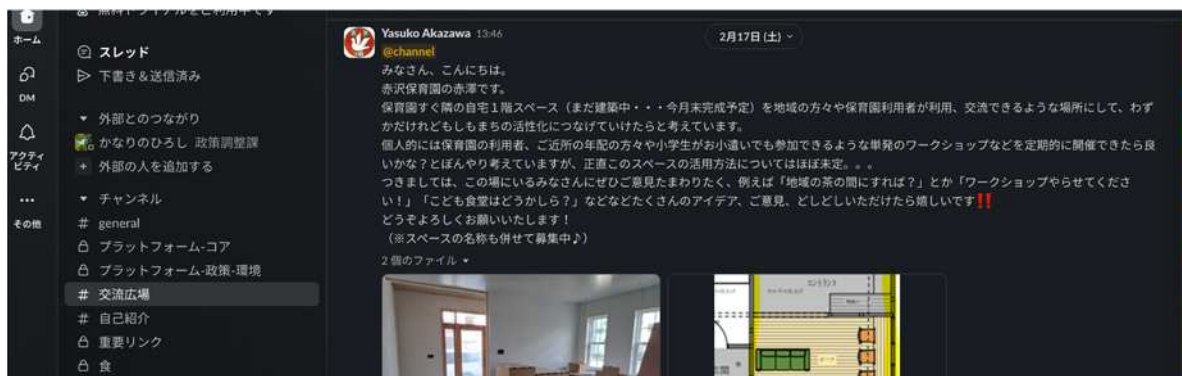
↑ 合計3回 都度2名のゲストを迎えてスペシャルエディションを開催
テーマ: date 9/27 食、date 12/15 教育、date 1/30 福祉



↑ 参加者のディスカッション(左)も熱を帯び、懇親会(右)でスモールスタートの機運も。

今年度チャレンジした主な取組内容 3

取組③オンラインプラットフォーム「slack」



【活動内容】

取組①②で生まれたコミュニケーションを止めることなく、いつでも情報交換出来るようオンラインのプラットフォームも作った。

【成果や気づき】

最初は運営側でメッセージを書き込まないようにして、なるべく自主的にコメントが生まれるようにしたが、なかなか活発にはならず。coffee houseなどで顔を合わせるメンバーから状況をヒアリングし、運営側からのレポートとして書き込むようスタイルを変えると、少しずつアクションが生まれてきた。まずは共感からで充分、coffee houseは情報の抽出だけではなく、気軽に顔を合わせる「居場所」としても機能することを感じた。オフラインとオンラインを活用することは世代間のギャップを埋める効果もあり、積極的に両輪を廻していきたい。

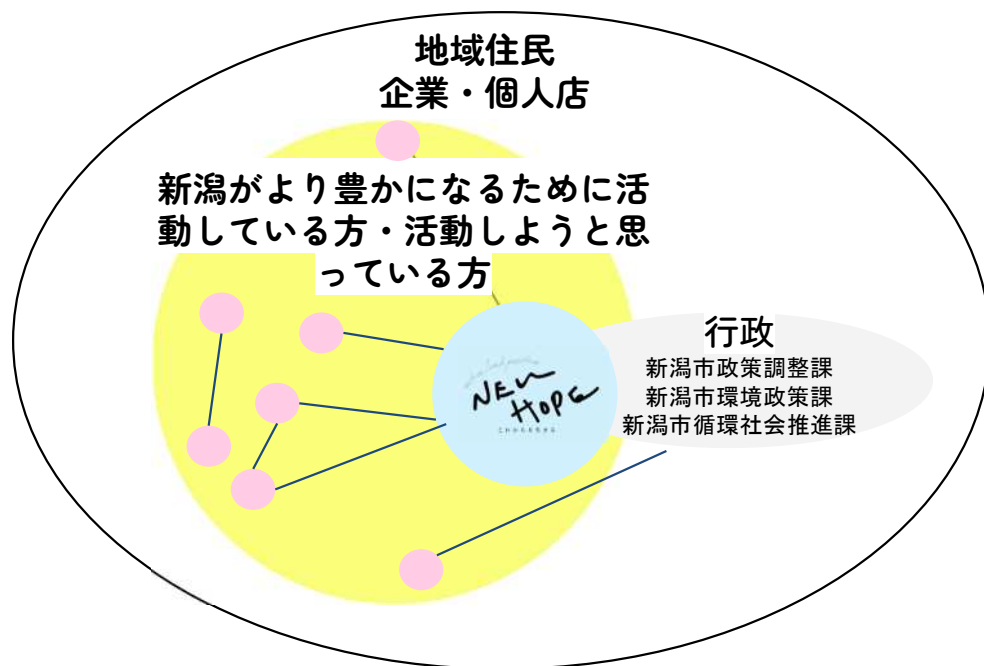
上：オンラインでどのようなやりとりが行われているかイメージ写真。

下：オンライン画面。参加者同志のやりとりから、アイデアが生まれ実際にプロジェクトが生まれる瞬間。

現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

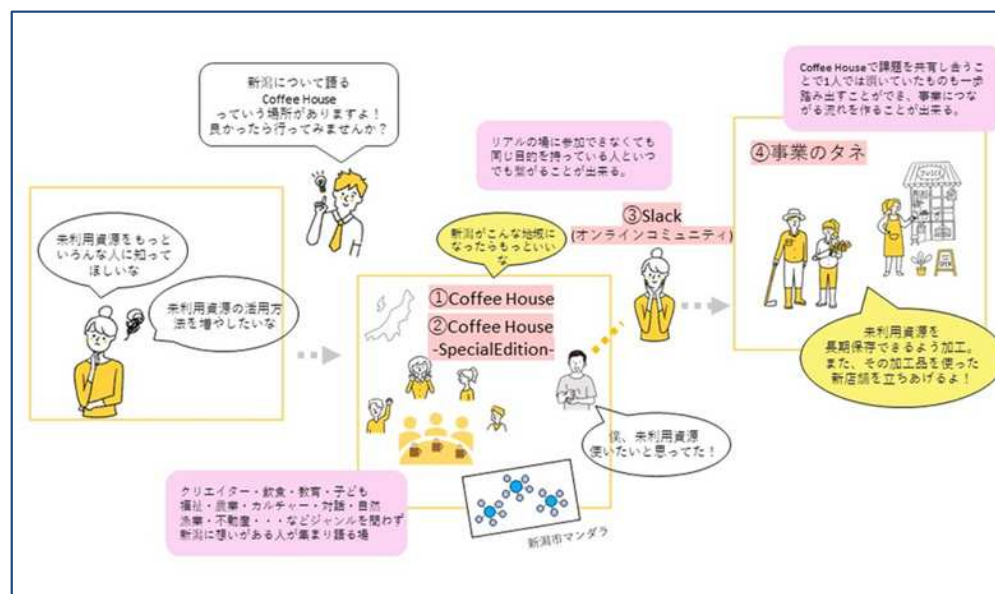
【現状の地域プラットフォーム】

申請時は、当団体が分析した現状と課題をベースにステークホルダーなども想定したが、急ぎ初回のステークホルダーミーティングを行ったことで、考えるべき視点を組み替えるべきと判断。ヒアリングから出てきた課題を可視化し、テーマを行政と協議し絞り、再度必要な人材やカルチャーを組み込みながら構築した。現在は全方位型ではないが、熱量高く活動する市民や活動と連携がいつでも取れる体制になっている。



【地域プラットフォームの変化】

プレイヤー自身の現在地はまだ大きく変わっていないが、NEW HOPEのプラットフォームを通じ出会った参加者。ここと繋がったことにより、新たなファンが増え、プレイヤー自身が日々取り組んでいることへの共感を改めて実感したり、そこで気づく「記憶」や「想い」が共感のキーファクターであることを改めて実感した。これは、プレイヤーの初期衝動を思い出すことと共に、熟練したプレイヤーが初心に戻るための大切なプロセスになることが分かった。この共感がきっかけでゲスト同士のコラボが生まれたり、参加者がボランティアスタッフになるきっかけになった。マンダラが顕在化することにより、それぞれの取り組みから連鎖する波及効果が高まる場所になりつつある。



プラットフォーム形成のポイント



①Coffee House

地域のビジョンを描く

仲間を探す

「新潟のこれからについて語る」をテーマに置きながらも気軽に語れる雰囲気にしたく、マンダラ作りに参加してもいいし参加せずに聞いているだけでもOKとした。参加者の方のジャンルは問わず、語る内容も問わず。新潟に感じる課題は何か？1人1人抱える課題は異なり、まとめるのに苦労した。

②Coffee House-Special Edition-

地域のビジョンを描く

仲間を探す

事業を生み出す

事業を考える

①で作成したマンダラから、課題感・活動内容など踏まえ行政の方と一緒にテーマを絞りゲストを選出。参加者はテーマに沿った方だけに絞らずいろんなジャンルの方に参加していただくようオープンに告知。現状、ゲストも参加者も仲間探しの場としては活用していただきながら事業のタネを生み出すところまではなかなか行かず。。

③オンラインプラットフォーム「slack」

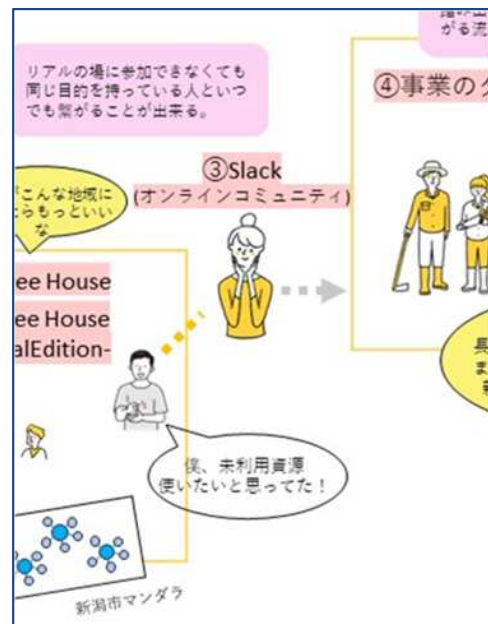
地域のビジョンを描く

仲間を探す

事業を生み出す

事業を考える

90日間でデータが消えてしまうためグーグルドライブ上で自己紹介を保存し共有。また、ルールを設定し心理的安全性も担保。情報交換だけでなく、イベントのPR・人手探しなどもOKにした。



取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

【成果】

・高純度の課題抽出

市民が抱えている解像度の高い課題感や、行政がヒアリングできない生々しい現場などを抽出することができた。行政と連携するポイントが明確になり、協力し合える事例を創出できた。様々なステークホルダーの存在や共感が作用し、具体的な事業化を数ヶ月で実現可能なところまで進めることができた。

・cafeによるカルチャーボックスの生成

COFFEE HOUSE事態の反応がとても良く、イギリスに発祥するカルチャーボックスに近い場をデザインできている。当事者、または間接的な支援者としてこの場に立ち会い、共存し、共有出来る価値は高い。

・現代型 自治プラットフォームの可能性

高齢層（オフライン）、若年層（オンライン）と考え、情報交換の土壌の違いを認め、新たな形を構築する機会になった。溝は深かったが現在はslackとオフラインでの情報交換である程度は賄えつつある。

【課題】

・支援機関との連携

地域でのスモールスタートを支えるために、創業支援団体などとの公式な連携が必要だが、まだ未着手。

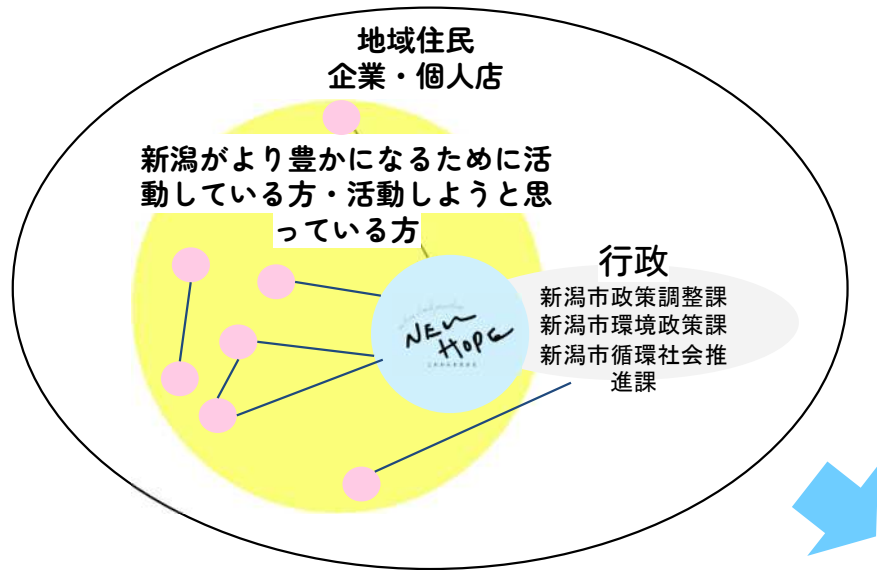
・産官学連携

まだ企業や大学などとの連携が少ない。必要性は感じていながらも、先方にどういうメリットがあるかが見極められない。ここは行政の力を借りて連携の可能性を見出したい。

・無数にあるタネの事業化

新規創業とまではいかないが、それぞれが持つ知見をもちより、沢山のビジネスアイデアや市民活動が生まれた。ただ、それを形にするための環境が全般的に足りない。想いと熱量を紡ぐだけではなく、その先へ導く、または伴奏するスキームや体制が大切。

活動における今後の展望



仲間を探す

現在、個人のかかわりが多い。
今後は、企業や大学などもプラットフォームに巻き込みたい。
巻き込むことによって↓

事業を考える

事業を生み出す

が加速して進む事を期待している。

